

審判員派遣報告書

1	派遣事業名 全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技	2	派遣期日 2017年7月24日～7月29日
3	報告者名 仲地 祥吾	4	派遣先 あづま総合体育館 国体記念会館

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技	大会期間	2017年7月28日～8月2日
大会内容 7月24日 開講式 25・26日班別トレーニング・モデルゲーム 27日審判会議 28日～本大会			

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	8月28日	高岡商業 - 川内	R	羽田氏(福島)	終始、接戦であった。終盤に川内が逆転し、勝利した。
2	8月29日	中部大第一 - 神戸科学技術	U	和田氏(福岡)	序盤は接戦であったものの、後半は中部第一がペースを握り、勝利した。
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>8月26日 モデルゲーム(正智深谷ー福岡第一)</p> <p>【自身の反省】 リバウンドの判定について、プレーに目を当てるのが遅くなってしまった。自身がトレイルで3番エリアからショットが起きた場合、ショットアプターのことを気にしすぎて6番に目を当てるのが遅くなったケースがあった。2POでは3番、6番がどうしても手薄になってしまうので、より綿密にカンファレンスで話しておくべきだった。</p> <p>【主任から】 ガイドラインに沿って、もっとシンプルに判定すべき。特にインパクトが大きいものはオフェンスに明らかな責任がない限り、必ずディフェンスファウルをコールしなければいけない。速攻でリードに入る時に判定ができていないときがあるので、プレーの見方を工夫する必要がある。</p> <p>8月28日 高岡商業ー川内</p> <p>【自身の反省】 試合の中で明らかなバイオレーションを逃してしまった。上級審判としてあってはいけないことであり、ベンチとの信頼関係も築けなくなってしまう。今後は必ず起きないようにしなければいけない。また、トラベリングの判定についてブレが出た。ゲームを通して同じ基準で一貫して吹かなければいけないと感じた。</p> <p>【主任から】 トラベリングに関しては、軸足の「ズレ」「踏みかえ」「遅れ」を基準に迷わず取り上げていくことが大切。ちょっとした判定のブレがチームのアピールの材料になってしまう。主審としては、相手審判に対するアピールにはすぐにワーニングを入れたほうがよい。高校生であってもゲームを管理する上では大切なことである。</p> <p>8月29日 中部大学第一 - 神戸科学技術</p> <p>【自身の反省】 ビッグマンのリバウンドの手の使い方と、オフボールでの体のコンタクトについて早めに笛を入れるべきであった。結果、やり返しのファウルを取り上げてしまったケースがあった。また、ショットブロックに関して、高さでは勝っているものの体がコンタクトしている部分について曖昧になってしまったものがあった。RSBQのいずれかが崩れたものについては迷いなくファウルの判定をすべきであった。</p> <p>【主任から】 ゲームの入りでチームの雰囲気を感じ取ることが大切。特にコンタクトの多いゲームに関しては審判がかなり神経質にならなければいけない部分が多い。イーガルなものに関しては迷いなくファウルを取り続けていくことが大切。</p> <p>全体を通して… 今回は特にメンタル面での未熟さを感じた。全国大会ではまだ過度に緊張してしまう。メンタルのブレが判定に大きく影響してるのも事実である。今後、大きな舞台でもいつも通りの判定力を発揮できるようにならなければいけないし、そのためにはもっと厳しい試合をみずから積極的に求めていかなければいけない。今回は2回戦までしか割り当てがなかった事実をしっかり受け止め、今後さらに成長できるように精進していきたい。</p> <p>最後になりましたが、今回の派遣においてご支援いただいた香川県協会、高体連の皆様には厚く御礼申し上げます。</p>	